

中学校における絵本『カーくん』と森のなかまたち』読み聞かせ道徳学習指導案作成のための資料

指導者 各学級担任（50分授業）

この資料について

- ・ 学習指導要領の内容に沿って、授業が組み立てられている。
- ・ ねらいは、各学級担任が児童の年齢や発達段階に応じて選定し、組み合わせることができる。
- ・ 指導者は、ねらいとする心情に迫った生徒の意見が比較的早く出てきた場合は、当然先に進んで掛けるべき時間を必要なところに掛けて「価値の追求」を図っていく。授業内容は、クラスの実態に合わせて、順序を入替えるなど微調整しながら授業をオーダーメイドしていく必要があり、意見交換発表、感想製作発表に当てる時間を十分に確保出来るように進行するのが望ましい。
- ・ 全校で授業を実施すれば、子どものうつ予防対策により一層効果がある。

*その他

児童達に絵本の内容をより深く理解させるために、学校図書館所蔵の絵本をパワーポイントデータなどにして、教室や多目的室などで絵本をプロジェクターで投影しながら朗読することもできる。

題材名 絵本『カーくん』と森のなかまたち』（夢ら丘 実果、吉沢 誠 著）

推薦・絵本付録解説への特別寄稿： 日野原 重明 聖路加国際病院名誉院長
" : 斎藤 友紀雄 日本いのちの電話連盟理事、内閣府自殺対策推進会議委員
日本自殺予防学会理事長、自殺総合対策東京会議委員
" : 保坂 隆 聖路加国際病院精神腫瘍科医長、厚生労働省科学研究班主任研究者

幼い時にぜん息を持っていた為にいじめられたり、大人になってからの交通事故により、重いうつ状態に陥った著者夢ら丘 実果が、周囲の支え、助けにより元気を取り戻していった経験と、著者 夢ら丘 実果 と 吉沢 誠 の親しい知人が自ら命を絶ち、悲しみにくれる遺族達を目の当たりにした経験から、何かしなければと思立ち、子どものうつ予防策になればと原作を考案した絵本である。

ホシガラスのカーくんは、自分との比較において周りの友人達の長所ばかりが気になり、自分には価値が無いと思込み、「みんなのように立派な羽がないし、かっこよく飛べない」「ぼくなんていてもいなくてもいい」と話している。自己評価を低め、自分が必要とされていないと感じ、絶望的になってしまう。ところが、優しいシロクロウのホー先生や友達の鳥の皆に支えられ、自分の良さや周囲の愛に気が付き、次第に元気を取り戻してゆく。

生徒達には、この文章と絵をじっくりと味わわせ、命の尊さについて深く考えさせたい。また、カーくんを思う先生や友達の気持ちにも触れ、自分たちひとりひとりが、この上なく周囲から愛された大切な存在であることに気付かせたい。

ねらい

1. ひとりひとりの命が掛け替えのない尊いものであり、生きていることに意義があることについて考える。
2. 人には、その人にしかできないこと、良いところが必ずあることを学び、人の欠点を探したり、個性や特徴をマイナスととらえ非難したりいじめたりするのではなく、長所ととらえ、美点・長所を見つけて伝えることの大切さを考える。
3. 死を考える程気分が沈んでいる辛い気持ちの人の心情を考え、そのような人に対して、優しく声掛けし、気持ちに寄り添って話を聴くことが大切であることを考える。
4. 自分自身が、気分が沈んで元気が出ない時には、先生や両親、信頼する友達等に悩みを話してみることにより、気持ちが軽くなる場合があることを考える。「チャイルドライン、」「いのちの電話」等の相談機関があることについても知識を得る。
5. 人はひとりでは生きていくことが出来ないことを考え、支え合い、助け合い生きていく意識を高める。

展開

導入

1. 先生の話 2分 今日の授業の意味、目的を伝える。

現在、心の病気(うつ病)が原因で、自ら命を絶つ人たちが沢山いる。(「自殺」について触れるかどうかは、学年、クラスの状況に応じて判断)それは何故だろうか。本来、失われていい命はひとつもなく、それぞれの命が掛け替えのない貴重なものである。ひとりひとりが元気に明るく過ごせることが望ましい。そのために、ひとりひとりにできることは何かを、皆で考えよう。

2. 絵本朗読 10分

展開(前段)

3. 解説 12分 著者の紹介(絵本プロフィールに記載) 絵本製作の経緯や絵本に込められたメッセージの説明(絵本付録解説に記載) 授業のねらいの内容について生徒達の意見を聞きながら話し合う

1. カーくんは元気がなく、「みんなのように立派な羽がないし、かっこよく飛べない。」「ぼくなんかいてもいなくてもいい。」と言って、とても元気がありません。何故でしょうか？

「カーくんは、自分を友達(他者)と比較して、自分には何も良いところがないと思い込み、落ち込んでしまっていた。」

「また、自分の体の白い斑点を汚いと思い、容姿についての劣等感もあった。」

カーくんは、うつ状態(心が具合が悪くなり、元気がなくなる状態)でした。その状態が長く続くと、うつ病(心が風邪をひいたような病気の状態)になります。体と同じように心も病気(うつ病)になることがあり、病気が重くなると、心も体も疲れきって死んだ方が良いと考える人もいます。この病気は、頑張ると良くなるものではなく、専門の先生に相談して治療を受けることが大事です。

2. カーくんは、本当に価値の無い、駄目な存在だったのでしょうか？

「カーくんは、友達に、体の斑点が夜空の星のようだと言ってもらい、嬉しくなった。」

「森を再生する上で、カーくんは大きな役割を担っていることも知らされて、自信が湧いてきた。」

どんな人にも、その人にしかできないこと、良いところが必ずあります。友達の良いところを見つけ、伝えて下さい。

3. カーくんが元気になったのは、どうしてだったのでしょうか？

「ホー先生や友達が、カーくんに優しく声を掛け、カーくんの辛い気持ちに寄り添い、時間を掛けて十分に話を聴いたから。」

「自分の良いところを伝えてもらい、自分自身が周りから認められている、必要とされていると感じることができたから、周囲に、少しでも元気がない人がいることに気付いたら、優しく声をかけて話を聴いて下さい。」

4. カーくんと同じく、人はひとりでは生きてゆけません。では、どのように助け合って生きてゆけば良いと思いますか？

「自分が深く悩んだり、落ち込んだりした時には、ひとりで悩まずに、カーくんのように、思い切って、先生や両親、信頼する友達等に悩みを話してみる。友達が困っていたら、優しく声をかけ、話を聴く。」

「カーくんの森の仲間たちのように、お互いの個性を尊重し、良いところを伝え合い、認め合い、皆で仲良く生きていく。」
自分が悩んだ時には、話すことで、気持ちが軽くなる場合があることを覚えておいて下さい。友達が死を考える程悩んでいることに気付いたら、相手の意思を尊重しつつ先生の援助を求めて下さい。「チャイルドライン」、「いのちの電話」等の相談機関もあります。(絵本付録参照)友達の個性や特徴をマイナスととらえ非難したりいじめたりすると、心の病気の人は自ら命を絶つ危険もあります。命は、全て掛け替えのない大切なものです。カーくんの森の仲間たちのように、お互いの個性を尊重し、良いところを伝え合い、認め合い、皆で仲良く生きていきましょう。 ----- (ここまで約24分)

展開(後段)

4. 意見交換 8分 絵本朗読、先生の解説を聴いた後の感想を、指名して聞いてゆきながら、ねらいとする意見に到達出来ているか確認を進める。

質問例

Q.絵本のストーリーを聴いて、また先生の話聞いてどう思いましたか？

予想される生徒の答え 「今、自殺する人、悩んでいる人がとっても多いことが分かった。

悩んでいる人がいたら、助けてあげたいと思う。」

Q.もし、普段と違って元気がない友達がいたら、どうしますか？

予想される生徒の答え 「普段と違って元気がないことに気付いて、優しく「どうしたの？何か悩みがあるなら、良かったら話して。」と声を掛け、悩んでいる人の気持ちになって話を聞く。」

Q.もし、自分が辛い悩みを持ってしまった場合、どうしますか？

予想される生徒の答え 「担任の先生や、両親、信頼できる友達等に、話をしてみる。また、いのちの電話等の相談機関に電話できることも分かった。」

Q.ひとりひとりの命について、どのように思いましたか？

予想される生徒の答え 「命は、とても大切なもの。お互いに良いところを見つけ認め合い、人は支え合い、助け合って生きていくものだと思った。」

----- (ここまで約32分)

----- 教室へ移動 -----

*同一教室の場合は移動不要。できるだけ、各クラスが各教室で授業実施するのが理想的。

まとめ

5. 先生のまとめの話 3分

6. 感想を書く 10分

*絵本『カーくん』と森のなかまたち』を読んで書かれた紙(自由に書ける書式、または、絵本の印象や作者が伝えようとしている内容を問う質問と、自分達は何をすれば良いかを問う質問等が書かれたワークシートA4用紙1枚)に感想を書く。

7. 生徒達による感想文の発表 5分 先生の指名により7.8人の発表。

評価

- 1.ひとりひとりの命が掛け替えのない尊いものであり、生きていることに意義があることについて考えることができたか。
- 2.人には、その人にしかできないこと、良いところが必ずあることを学び、人の欠点を探したり、個性や特徴をマイナスととらえ非難したりいじめたりするのではなく、長所ととらえ、美点・長所を見付けて伝えることの大切さを考えることができたか。
- 3.死を考える程気分が沈んでいる辛い気持ちの人の心情を考え、そのような人に対して、優しく声掛けし、気持ちに寄り添って話を聴くことが大切であることを考えることができたか。
- 4.自分自身が、気分が沈んで元気が出ない時には、先生や両親、信頼する友達等に悩みを話してみることにより、気持ちが軽くなる場合があることを考える。「チャイルドライン」、「いのちの電話」等の相談機関があることについても知識を得ることができたか。
- 5.人はひとりでは生きていくことができないことを考え、支え合い、助け合い生きていく意識を高めることができたか。